

SU抵抗性雑草

難防除雑草

など

水田のガンコな雑草にも

イッテツ

除草一徹!!

**フロアブル・粒剤・ジャンボ
3剤型が勢ぞろい!!**



水稲用初・中期
一発処理除草剤

難防除雑草対応タイプ

イッテツ[®] **フロアブル
1キロ粒剤
ジャンボ**

農林水産省登録 第20946号(フロアブル) 第21415号(1キロ粒剤) 第21599号(ジャンボ)
イッテツは住友化学(株)の登録商標

- ① ノビエ、一年生・多年生雑草の他、SU抵抗性雑草、難防除雑草まで幅広く効果を発揮します。
- ② 移植後5日～ノビエ2.5葉期まで使用できます。
- ③ 初期除草剤との体系でも使用でき、雑草の種類(クログワイ、オモダカなど)及び、発生状況に応じて最大で移植後30日まで散布が可能です。

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法
移植水稲	一年生雑草 及び 多年生広葉雑草 エゾノサヤナカグサ アオミドロ・藻類による表層はく離	移植後5日～ ノビエ2.5葉期 ただし、 移植後30日まで	500mℓ /10a	1回	原液湛水散布、 水口施用又は 無人航空機による 滴下
直播水稲	一年生雑草 及び マツバイ ホタルイ ウリカワ ミズガヤツリ ヒルムシロ セリ	稲1葉期～ ノビエ2.5葉期 ただし、 収穫90日前まで			原液湛水散布

ホタルイ ウリカワ ミズガヤツリ ヘラオモダカ エゾノサヤナカグサ	2葉期まで
ヒルムシロ	発生期まで
セリ	再生始期まで
シズイ	草丈3cmまで
オモダカ クログワイ コウキヤガラ	発生始期まで
アオミドロ・藻類 による表層はく離	発生前まで

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法
移植水稲	一年生雑草 及び 多年生広葉雑草 アオミドロ・藻類による表層はく離	移植後5日～ ノビエ2.5葉期 ただし、 移植後30日まで	1kg/10a	1回	湛水散布
直播水稲	一年生雑草 及び マツバイ ホタルイ ヘラオモダカ ウリカワ ミズガヤツリ ヒルムシロ セリ	稲1葉期～ ノビエ2.5葉期 ただし、 収穫90日前まで			

ホタルイ ウリカワ ミズガヤツリ ヘラオモダカ	2葉期まで
シズイ	草丈3cmまで
ヒルムシロ	発生期まで
セリ	再生前から 再生始期まで
クログワイ オモダカ コウキヤガラ	発生始期まで
アオミドロ・藻類 による表層はく離	発生前まで

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法
移植水稲	一年生雑草 及び 多年生広葉雑草 アオミドロ・藻類による表層はく離	移植後5日～ ノビエ2.5葉期 ただし、 移植後30日まで	小包装 (パック) 10個(400g) /10a	1回	水田に 小包装(パック) のまま 投げ入れる
直播水稲	一年生雑草 及び マツバイ ホタルイ ウリカワ ミズガヤツリ セリ	稲1葉期～ ノビエ2.5葉期 ただし、 収穫90日前まで			

ホタルイ ウリカワ ミズガヤツリ ヘラオモダカ	2葉期まで
オモダカ クログワイ コウキヤガラ	発生始期まで
シズイ	草丈3cmまで
ヒルムシロ	発生期まで
セリ	再生前から 再生始期まで
アオミドロ・藻類 による表層はく離	発生前まで

■有効成分の総使用回数(3剤型共通)

イマズスルフロンを含む農薬の総使用回数	2回以内	カフェンストールを含む農薬の総使用回数	1回	ペンゾピシクロンを含む農薬の総使用回数	3回以内
---------------------	------	---------------------	----	---------------------	------

(上記の内容は2019年11月現在の登録内容)

【3剤型共通の使用上の注意】(抜粋)

- 雑草の発生前から生育初期に有効なので、ノビエ2.5葉期までに時期を失わないように使用してください。
- なお、多年生雑草は生育段階によって効果にブレが出るので、必ず適期に使用するように注意してください。
- 直播水稲で使用する場合は、稲の根が露出する条件下では薬害を生じるおそれがあるので注意してください。
- 移植前後の初期除草剤による土壌処理との体系で使用するには雑草の発生状況をよく観察し、時期を失わないように適期に散布するよう注意してください。
- 梅雨期等、散布後に多量の降雨が予想される場合は除草効果が低下することがあるので使用をさけてください。
- 本剤を使用した水田の田面水は、他作物の湛水に用いないでください。
- 移植前に生じたミズガヤツリには効果が劣るので、物理的防除方法などを用いて移植前に防除してから使用してください。
- 本剤はその殺草特性からいって、れんこん、せり、くわいなどの生育を阻害するおそれがあるので、これらの作物の生育期に隣接田で使用する場合は十分注意してください。
- いぐさ栽培予定水田では使用しないでください。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意し、特に初めて使用する場合や異常気象時は、病害虫防除等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- 水産動物(魚類)に影響を及ぼすので、養魚田では使用しないでください。
- 水産動物(藻類)に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用してください。
- 散布後は水管理に注意してください。
- 散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないでください。また、空容器、空袋等は水産動物に影響を与えないよう適切に処理してください。

【フロアブル・1キロ粒剤の使用上の注意】

- 使用量に合わせ秤量し、使いきってください。
- 浅植え、浮き苗が生じないように、代かき、均平化作業及び植付けはいいねいに行ってください。未熟有機物を施用した場合は、特にいいねいに行ってください。
- 以下のような条件下では薬害が発生するおそれがあるので使用をさけてください。
①砂質土壌の水田及び湛水の大きな水田(湛水深が2cm/日以上) ②軟弱な苗を移植した水田 ③極端な浅植えの水田

【フロアブルの使用上の注意】

- 使用前には容器を軽く振ってください。また、使用後の空の容器は放置せず、安全な場所に廃棄してください。
- オモダカ、シズイ、クログワイ、コウキヤガラは発生期間が長く、遅い発生のもまでは十分な効果を示さないの、有効な後処理剤と組み合わせで使用してください。
- 散布の際は水の出入りを止めて湛水状態のまま本剤を水田全面にゆきわたるように散布してください。
- 水口施用の場合は入水時に本剤を水口に施用し、流入水と共に水田全面に拡散させてください。処理後田面水が通常の湛水状態(湛水深3～5cm)に達したときに必ず水を止め田面水があふれないように注意してください。

- 無人航空機で滴下する場合は次の注意を守ってください。
①滴下は使用機種の使用基準に従って実施してください。
②滴下に当たっては散布装置のノズルを使用しないでください。
③作業中、薬液が漏れないように装置の十分な点検を行ってください。
④隣接する圃場に水稲以外の作物が栽培されている場合は無人航空機による本剤の滴下は行わないでください。
⑤水源池、飲料用水等に本剤が流入しないよう十分留意してください。
⑥薬剤滴下を使用した装置は十分洗浄し、薬剤タンクの洗浄廃液は安全な場所に処理してください。
⑦本剤の滴下に使用した無人航空機の散布装置は、水稲以外の作物への薬剤散布には使用しないでください。
- 本剤処理後、少なくとも3～4日間は通常の湛水状態(水深3～6cm)を保ち、田面を露出させたり水を切らしたりしないでください。また、散布後7日間は落水、かけ流しはしないでください。
- 無人航空機による滴下で使用する場合は、河川、養殖池等に飛散しないよう特に注意してください。

【1キロ粒剤の使用上の注意】

- シズイは発生期間が長く、遅い発生のもまでは十分な効果を示さないの、有効な剤との組み合わせで使用してください。
- 散布の際は、水の出入りを止めて湛水状態(水深3～5cm)で、まきむらが生じないように均一に散布してください。また、極端な浅水や深水での使用はさけてください。
- 散布後3～4日間はそのまま湛水を保ち、田面を露出させないようにし、散布後7日間は落水、かけ流しはしないでください。また、入水は静かにおこなってください。

【ジャンボの使用上の注意】

- 薬液または表層はく離の発生しやすい水田では、有効な剤との組み合わせで使用してください。
- 苗の植え付けが均一になるように整地、代かきはいいねいに行い、ワラくすなどの浮遊物はできるだけ取り除いてください。また、未熟有機物を施用した場合は特にいいねいに行ってください。
- 処理に当たっては、水の出入りを止めて5～6cmの湛水状態に保ってください。処理後、少なくとも3～4日間は通常の湛水状態を保ち、田面を露出させたり、水を切らしたりしないでください。また、散布後7日間は落水、かけ流しはしないでください。自然減水により田面の一部が露出するようになつたら、水尻を止めて通常の水深になるまで水をいれて水口を閉じてください。
- 小包装(パック)のまま、10アール当り10個の割合で水田に均等に投げ入れてください。
- バックに使用しているフィルムは水溶性なので、濡れた手で作業したり、降雨で破損することがないように注意してください。
- 以下のような条件下では薬害が発生するおそれがあるので使用をさけてください。特に、処理時または処理後数日以内に異常高温が重なる場合は、初期生育の抑制が顕著になるので注意してください。
①砂質土壌の水田及び湛水の大きな水田(湛水深が2cm/日以上) ②軟弱な苗を移植した水田 ③極端な浅植えの水田
■必要量を購入し、できるだけ残すことなく使い切ってください。
■葉や浮き草が多発している水田では、拡散が不十分となり効果の劣る可能性があるため使用をさけてください。
■「濡れた手」で扱わないでください。バックを破らせずにそのまま投げ入れてください。

- 使用前にはラベルをよく読んでください。 ●ラベルの記載以外には使用しないでください。 ●小児の手の届く所には置かないでください。 ●空袋、空容器は圃場等に放置せず適切に処理してください。

